

## 令和5年度 スタッフ紹介

### 小児科 三井哲夫教授

仕事始めて以来、趣味らしきはほとんど無いですが、休日のひたすら乱読と素敵な場所歩き探訪位でしょうか。写真は春見つけた山形市内街中のある場所です。どこかわかりますか？



### 小児科医 中村和幸医師

ポケモンが好きなので、仕事のデスクはポケモンフィギュアであふれています。「カビゴン」といういつも眠っているポケモンのような生活を目指しています。モンテディオサポーター歴20年となり、時々応援に行っています。



### 事務員 齋藤翔太

趣味は散歩で歩いている時に珍しいものを見つけるとカメラに撮りたくなります。先日、地下歩道の中で塞がれた階段を見つけたので思わず写真に残しました。



### ソーシャルワーカー 武田幸子

我が家の冷蔵庫で待機している保存食。食材探し、調理の工夫、どんなふうを食べようかな〜と考えたりが楽しみです♪イクラ・生たらこ・ホタルイカの沖漬け・おみ漬け・塩こうじやヨーグルトにジャム、山形県産落花生等々…が出番を待ってます！



### ソーシャルワーカー 後藤美紀

机上のサボテン栽培が癒しです。この、背丈が5cmほどのミニサボテン、お迎えした時は2本の子株がうさぎのようでしたが、育てているうちに更に2本増えました。何かいいことがありそうな予感☆花言葉「枯れない愛」に因み、毎日励んでいます。



## センターからのお知らせ

～センターから&センターに届いた県内情報などをお伝えします～

### ●当センターの愛称を募集します！

地域のみなさまのご理解とご支援、ご協力を賜り、開設から1周年を迎えることができました。このたび、県民のみなさまにより一層親しみを込めてセンターをご活用いただけますよう、センターの愛称を募集いたします。詳細は同封のチラシをご覧ください、どうぞ応募ください！

### ●2023.8.26(土) 14:00～15:00

#### 「慢性疾患のあるお子様の災害の備え、どうしたらいい？」

対象：慢性疾患のあるお子さんの家族や関係者  
詳細：村山保健所 子ども家庭支援課 保健支援ご担当へ

### ●2023.10.22(日) 10:00～15:00

#### オレンジリボンフェスタ2023inやまがた@ひがしね

「こどもどまんなか」～つながりあうべ ささえあうべ わらいあうべ～

詳細：オレンジリボンフェスタ事務局 ひがしねあそびあランドへ

当センターホームページもぜひご覧ください!! →→→



### 編集後記

今回のニュースレターはいかがでしたか？今年度はセンター開設2年目！皆さんのお話をお聞かせ願うべく、県内各所に訪問させていただきたいと思っております！よりよい地域・よりよい山形県となるよう、皆さんと一緒に考え、実現していきましょう！さて、三井先生の素敵な場所探訪の場所はわかりましたか？正解は次号をお楽しみに！←ご意見・ご感想をお待ちしております。



山形県医療的ケア児等支援センター

# News Letter

愛称募集中！

Vol.2

2023年夏号



## 七夕の短冊に願い事をしたことが懐かしい季節となりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、医療的ケアが日常的に必要な方々は全国では2万人を超えて増加傾向であり、山形県には165人の医療的ケア児がおります(県障がい福祉課調べ)。開設以降、家族をはじめ医療機関、保健所、自治体、サービス事業所、保育施設、学校といった様々な関連機関から相談が寄せられています。内容としてはレスパイト・移動・医療・福祉サービスの利用、災害対策といった日常の様々な支援に関して、入園・入学支援・移行期医療といったライフステージで生じる課題についての相談が多い状況です。

医療的ケア児・者を抱えるご家族の負担は大変大きく休息が取れない、移動の負担が大きいため、すぐに解決策を見出すことが難しい問題があります。一方で「医療的ケアを受けながら地域の保育園や学校に行きたい」という声に対して、行政および園や学校と共に体制整備をすることで、県内においても医療的ケア児の通園・通学が可能になった事例があります。

医療的ケア児・者の支援者に対して基本的な手技や緊急時対応を学ぶ「山形県医療的ケア児直接処遇者研修」や訪問診療に病院の主治医が訪問診療医と一緒に何う「小児科主治医同行訪問事業」といった県事業の活用、他機関との連携や情報共有で、積極的にセンターから地域に出向き、チームで医療的ケア児の社会生活の改善推進に取り組んでいます。

これからが暑さの本番。夏風邪などお召しになりませんよう、どうかご用心されますように。



中村和幸医師

## 地域を訪ねて

今年度は、より一層の地域の皆様との連携・協働の推進を図るべく、県内の各地域の自治体や基幹型支援センター、学校や幼稚園・保育園、医療機関などへ訪問させていただき、地域課題の収集と共有、課題解決のためのお話し合いなどを行っています。

これまで県内各地の皆様からいただいたご意見やご相談のうち、特に多いものは、就学や就園時に関連するものです。

地方公共団体が、医療的ケア児及びその家族に対する支援に係る施策を実施する責務を有することが法で明文化されたことも一つの契機として、山形県内でも医療的ケア児等を地域(地元)の学校等で受け入れる仕組みを整え、来春に入学を迎えるお子さんのための準備が複数の自治体で始まっています。そこで園や学校の先生方とともに重要な役割を果たされる新たな職種として園・学校看護師さんがあります。こうした看護師さんが県内でも増えていただけるよう、当センターにて研修を企画しています。

課題はその他にも、移動に関する支援や医療型ショートステイ(レスパイトケア)のご相談も後を絶ちません。これらは全国的にも長期的な課題となっている現状があります。これらの課題について、解決に近づくための活動を地域の皆様とともにやってゆきたいと考えています。

医療技術の進歩とともに、地域の仕組みも進歩が必要な現代。既にある事業はより利用しやすい事業に、これまで無かった資源は新しく構築していく必要があるように思われます。

そうすることで、医療的ケアを必要とするお子さんやそのご家族へ、より総合的な支援を実施することが

できるのかも  
鶴岡市健康福祉部福祉課/基幹型相談支援センター  
にこそ / 相談支援センターあおばの皆さんと

今月も複数の市町村や機関を訪問させていただきました。みなさま、貴重なご意見と楽しいひとときをありがとうございました。



## INFORMATION

一般社団法人 全国医療的ケア児等コーディネーター支援協会では、医療的ケアを必要とするお子さんが保育園に入ってお友達と仲良くなる時のための児童用啓発ツールとして、紙芝居を作成しています。

保育園のお子さんは、「先生あの子のお鼻にあるのはなに？」と質問する子もいます。そんな時多くの保育士さんは、答えにちょっと困ってしまうそうです。この紙芝居の構想は、現場の保育士さんや、お友達に関心を寄せ、理解しようとしている子ども達と、医ケアを必要とする子ども達との懸け橋として、保育士さんが使えるように、作られようとしています。

紙芝居の挿絵は、医療的ケアを要するお子さんのお母さまが描かれました。今よりも医療的ケアを受け入れてくれるデイも保育所も、情報もなく、とにかく大変な毎日をすごされ、近所の保育園に他の子と一緒に通えたらどんなに楽しく、いつも思っていたらそうです。

お母さまは、医療的ケアのお子さんを受け入れている保育園がかなり増えてきていることを知り、本当に喜ばしく思われ、どれだけのお子さんが、保護者が、それで助かるだろうかと考えておられ、小さな頃から障がいがある子もいない子も当たり前のよう一緒にいられば、未来はもっと変わっていくのだろう、と考えていらっしゃるそうです。(READYFOR 医療的ケアを必要とするお友達のことを子ども達に伝えたい！活動報告より抜粋)

紙芝居は現在制作途中です。より良いものに仕上げられるようモニター調査中であり、山形県からはA市の保育園がモニターに選ばれ、先日お届けいたしました。



完成が楽しみです！

## 地域紹介 “Reはーとぴいす”（児童発達支援事業所）

この春、あるお子さんの保育園就園支援のなかでご縁をいただいた“Reはーとぴいす”の管理者、森さんご夫妻の思いをご紹介します。

### Q. 医ケア児を受入れ始めた経緯をおしえてください。

もともと高齢者施設を立上げ、その後障がい者との共生型事業所としました。そして、児童発達支援事業所・放課後等デイサービスの立ち上げました。

開所前の事業所見学会に、実は、私たちが想像していなかった障がいのお子さんの保護者の方が見学にいらしたのです。それは医療的なケアを必要とするお子さんの親御さんで、「私達の子どもはこういう子なんですけど、受け入れてくれないか」と問いかげられました。

障がいとしては最重度のお子さんで、親御さんがお子さんの状況や希望、お困り事などを沢山語られたのです。

私達はそのお子さんやご家族とはその場が初対面でしたが、「分かりました。やります。」と一つ返事をしたんです。事業所には看護師がいましたし、やらなければとの思いから県や関係各所に確認しつつ体制や人員を整えていきました。



保育園など子ども達が集団で行くようなところには、連れて行きたくも園の方から断られてしまっ、行けないという子がいるんだということは何となく知っていたのですが、その時にそういう事実と直面し、改めて医療的なケアを必要としているお子さんや親御さんのご苦労や、叶えられずにいる希望などを実感しました。

受入れをはじめると、そのお子さんの保護者のお友達の繋がりで、「見学をしてもいいですか？」というお声を次々いただき「あ、こんなにたくさんのお子さんがあるんだ」と実感したことを覚えています。こうして「医ケア児」を受け入れてきました。

### Q. 実際に受け入れてからはいかがでしたか？

開所当時は自分で動ける子と医ケアが必要な子が同じ空間で活動していたので、環境や時間で分けたりしながら、安全を担保していました。そこから今度は復職を希望される保護者の方が来られたり、もっとこうしたいという保護者の方の想いが沢山表出され、併せて工夫していくうちに、利用者もおかげ様で沢山来てくれるようになったりして。

同時に動ける子の利用希望が増えたこともあり、双方の安全を確保するため、いっそのこと建物で分けようということになりました。

うちの看護師は子どもに接するのが初めての方ばかりです。しかし、お母さんにお子さんのケア方法をきいて実践したり、研修を受けたりなど日々学び、一生懸命です。医療機関以外での看護の現場に関する共有の機会はほぼないので、今後はぜひやりたいですね。

小児科での経験がある看護師さんって実は少ないんですね。その中で手を挙げてうちに来て下さるといのは凄いと感ずうんです。だからこそ、共有の場や実技研修の機会があれば有難いですね。

### Q. みなさんにお伝えしたいことはどんなことですか？

地域の一般の保育園に通わせたいというお母さんがいました。気管切開のためにお話はできないけれど、ジェスチャーで一生懸命伝えようとして、時には思うとおりに伝わらずイライラしながらも頑張る姿をみせてくれるお子さんでした。

A園への入園は叶わなかったけれど、B園では「引きうけます」って言ってくださって、保育園に入園することができたそうなんです。「そうなんだそうなんだねえ！よかったねえ！」って。

保育園に入園できたことによりお母さんが復職できて、そしてその子もお友達の中で成長していて、他の子に「〇〇ちゃん、バイバイ」と言って手を振る姿を見た時に、もうなんか勝手にうれしくなって泣きそうになって。成長した姿を見せてくれることは、やってよかったと思う瞬間です。



理想は、こうした障がいを抱える方だけを対象とする事業者はなくてもいい世界が一番なのかなって思います。障がいがあるというだけで「ブツツ」と分けたことは、本当はどうだったのでしょうか。普通って何でしょう。

医療的ケアや障がいを抱える子が、地域の保育園や小学校入学を断られてしまうことが少なくない中で、我々の支援のノウハウを使っていただいて、何らかの形で保育園や学校と連携できたらと思うことがあります。

とにかく、共生社会を一日も早く実現できればと願っています。

医療的ケアを要するお子さんの

## 小学校就学に関する 情報共有会



地域の小学校へ医療的ケアを要するお子さんの受入れを検討されている、A市教育委員会と放課後児童クラブについて情報共有を行いました。

医療的ケアを要するお子さんがお住まいの地域の小学校等へ入学されることは、これまでも県内各地でわずかながらも実現されています。

今回は、先駆的に医療的ケア児の就学に取り組まれてこられたB市教育委員会の方をお招きし、教育委員会としてのご経験や、入学前と小学2年生になった今のお子さんご家族の状況をお伝えいただきました。

また、医ケア児の受け入れに必要な「ガイドライン策定」「対応検討委員会の設置」「進行スケジュール」「看護師採用」といった、医ケア児の就学を考える際に他の市町村でも検討ポイントとなる課題について、B市教育委員会におけるご活動を紹介いただきました。

そして、地域の小学校での学びや体験を通じ、そのお子さん自身が登下校時の楽しみをみつけたりなどして、主体的な通学が継続されていること、重複した障がいをもちつつも友人との学校生活を通し大きく成長していることを実感していることなど、沢山のご経験や実績のお話をいただき、学校関係職員の方々が各々のお立場での支援について、成果を感じておられる様子でした。

お子さんが地域の小学校へ通うようになったために、お母さまの就労が叶ったという、ご家庭の変化もあったようです。

おわりに、A市より、先駆的に就学支援を進めてきた担当者との貴重なつながりができたことの有難さについてお話がありました。



保育園や学校等で、先生方とともに医ケア児を支える重要な役割を担う看護師さんの雇用に関し、県内各地域で大きな課題が浮き彫りとなっております。

当センターでは本課題にご関心をおもちの看護師さんと、そのお力を必要としているお子さんとの間に、“縁”をつなげたいと考えています。

そのつながりを発見するための活動として、県内4圏域にお住まいのお子さんや関係機関の皆様のところへお訪ねし、ご意見をいただきながら皆さんとともに活動していきます。

